

平成二十九年 度 「まちづくり愛川・俳句大会」 投句状況

※「まちづくり愛川・俳句大会」実行委員会では、投句箱による投句（応募）を随時受け付けております。また今年度から、次の四期に分けて本HP内で紹介させていいただくとともに、選句委員による「奨励選句」の紹介も行っておりますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

① 春期（二・三・四月） 奨励選句の紹介は五月

② 夏期（五・六・七月） 奨励選句の紹介は八月

③ 秋期（八・九・十月） 奨励選句の紹介は十一月

④ 冬期（十一・十二・一月） 奨励選句の紹介は二月

以上、当季雑詠とする。

※表彰式は、年に一度、一月下旬の開催予定でしたが、諸事情により、今回は二月二十五日（日）午後開催に変更させていただきました。「奨励選句」された句も対象になります（入選は、一人につき一句）。

〈冬期〉（投句期間 平成二十八年十二月〜平成二十九年一月）

☆印は、委員による「奨励選句」。尚、選者により、添削されている箇所がある場合もあります。ご了承ください。また諸事情により、小・中学生の記名については未記載とさせていただきます。併せてご理解ください。

【小学生の部】

・さむいけど犬のさんぽをがんばるぞ （愛川町中津）

【中学生の部】

・鳥の声聞こえてくるよだれの声 （愛川町中津）

・もうすぐだ学校生活おさらばだ （愛川町中津）

【一般の部】

・色づくもなぜにさみしい八菅山 （愛川町中津） 和田 様

・葉を落とし柿の実花と際出させ

(愛川町中津

窪田栄子 様)

・この街にぬくもり放つベンチあり

(愛川町中津

森田京子 様)

☆贅沢は風呂に浮かせた袖二つ

(同右

(同右

・角部屋の寝つけぬ夜半やはを時雨かな

(同右

(同右

・初釜の華を迎える昼の月

(愛川町中津

杉山由紀子様)

・寒風に毅然と立つ投句箱

(同右

(同右

・正月や鐘つき堂の響あり

(同右

迷麿人 様)

・年あらた古刹やもりの静けさや

(愛川町春日台

かわいかずみ様)

・いにしえ古を香ぞ古のせて杜庭やしろにわ

(同右

(同右

☆あけの鐘川瀬もしずか初まいり

(同右

(同右

・この景色あなたとおなじふるさとだ

(同右

未来の偉人 様)

〈春期〉 (投句期間 平成二十九年二月〜平成二十九年四月)

☆印は、委員による「奨励投句」。尚、送者により、添削されている箇所がある場合もあります。くじご、マイク承願します。また諸事情により、小中学生の記名については未記載とさせていただきます。併せて「理解してください」をお願いいたします。

【小学生の部】 投句なし

【中学生の部】 投句なし

【一般の部】

・思い出す中津溪谷照らす月

(厚木市山際

井上勝朗様)

・狭まりて中津溪谷時雨初む

(同右

(同右

☆思い出すは中津溪谷せみ時雨

(同右

(同右

・散歩道創生会の花みごと (佐竹)

・パンジーの色彩やかに春が来た (同右)

・梅咲いて動く地図読む道案内 (愛川町中津 森田京子様)

(交番で道を聞くもスマホで教えてくれました。)

☆立ちこぎの少女は背中に夢描く (同右)

・菜の花や笑った母の顔のあり (同右)

・なの花に見えてかくれて母想う (厚木)

・母思う心流れて山笑う (同右)

・雨あがり桜まんかい山笑う (愛川町春日台 別府和子様)

・春笑うとおきおもいに母とぼく (厚木市)

・母とぼく遠き想いに春笑う (同右)

※「奨励選句」事後評 「立ちこぎの・・・」の句は、無季語とも受けとめられるが、委員間では、ブランコを立ててこいでいる様子がかわいらしく表現されており、春の季語としての記載と理解し、奨励選句作品とさせていただきます。

〈夏期〉（投句期間・平成二十九年五月～平成二十九年七月）。

★印は、委員による「奨励選句」。尚、選者により添削されている箇所がある場合もあります。YJは、YJ承願します。また諸事情により、小・中学生の記名については未記載とさせていただきます。併せてご理解ください。

【小学生の部】及び【中学生の部】 投句なし

【一般の部】

・なき母の声がかきこえる山笑う (部門別及び名前 無記入)

・目に若葉なみだ流して母想う (同右)

・目をとじて母の笑いにふじの花 (同右)

☆コロコロと田螺の恋が盛り上がり (愛川町中津 長嶋 清一郎)

・五月晴れ水面の田圃生きかえり (同右)

・武蔵野で入道雲がふるい立つ (同右)

・かえるなく青空ながめたび想う (部門別及び名前 無記入)

・マルエツで何か買うものありますか (厚木市 飯田 茂)

・よきによき雨後の竹の子たけくらべ (迷麿人)

☆代かきや山を映して水鏡 (同右)

・三姉妹摘んでみたやさくらんぼ (同右)

・さなえ終敷えたんぼの青畳 (同右)

・日が高く鉛筆書けぬと夏の暮れ (同右)

・日まわりや大輪の花背高し (同右)

・早朝の一步一步がボケ防止 (匿名希望)

- ・夏が来るおふくろいないいふるさとよ (部門別及び名前 無記入)
- ・初デート娘ニコニコ出かけたよ (愛川町田代 佐藤千恵子)
- ・夏風の吹く朝に父親複雑なり (同右)
- ・夕方の風吹く川原犬と散歩する (同右)
- ・片陰や一息タイムベンチあり (愛川町中津 森田 京子)
- ☆消えぬ間のワンツージャンプ虹の橋 (同右)
- ・減額の年金通知花柘榴はなつぐも (同右)

〈秋期〉(投句期間 平成二十九年八月〜平成二十九年十一月)

★印は、委員による「奨励選句」。尚、選者により添削されている箇所がある場合もあります。同じで、マメに承願します。また諸事情により、小・中学生の記名については未記載とさせていただきます。併せてご理解ください。

【小学生の部】及び【中学生の部】 投句なし

【一般の部】

- ・せせらぎの鮎取り香るスイカ割り (部門別及び名前 無記入)
- ・蛸たこや通り抜けても啼なきやまず (迷廃人)
- ・台風の免れてみんな鳴き始む (厚木市王子 大谷 仁)
- ・山畑の土持ち上げる露の薑 (厚木市妻田東 北村 純一)
- ・たっぷりの川音うれし夏つばめ (同右)
- ・庭石のひとつのやうなひきがえる (同右)
- ・春雨や濡るるも嬉し勝楽寺 (同右)
- ・直線のつくる構図に田水張る (同右)

- ☆石仏の視野をはみだす山桜 (同右)
- ・丹沢の峰より崩るる夏の雲 (同右)
- ・愛川をくまなく歩き秋惜しむ (同右)
- ・古戦場武者の気配や草紅葉 (同右)
- ・瀬音して銀河のやうに蛍舞う (同右)
- ・きつつきや森の中なる勝楽寺 (同右)
- ・舞ふ蛍消えたる闇の深さかな (同右)
- ・白萩をこぼして風の隠れんぼ (同右)
- ・仏果山みやげのやうな草虱 (同右)
- ・雨後の蟬仲間増やして鳴きにけり (同右)
- ・競り合つて半僧坊の秋の陣 (同右)
- ・秋雨に歴史の匂う杉木立 (同右)
- ・山門を落葉が叩く勝楽寺 (同右)
- ・仏果山に一札をして鉄始め (同右)
- ・化粧され正座してゐる祭りの児 (同右)
- ・ひらがなのやうな気分の蛍の夜 (同右)
- ・秋しぐれ仏果山まで隠しけり (同右)
- ・鬼やんま尻尾に見せる息遣ひ (同右)
- ・手で包む蛍に水の匂ひする (同右)
- ・せせらぎの音に誘われ河鹿鳴く (同右)
- ・どんぐりを掌に遊ばせて山路ゆく (同右)

・仏果山へ照葉紅葉の押し合へり (同右)

・初蝶や光こぼして舞い上がる (同右)

・胸のうち告げてゆらりと蛍の夜 (同右)

・鐘撞いて少し傾く大西日 (同右)

※北村氏による計三十句は、9月初旬～中旬に、春期・夏期分も含め、まとめて事務局宛に郵送されたもの。

☆雨あがり精の限りを蟬しぐれ (愛川町中津 杉山由紀子)

・歩を阻む暗紫色の実山牛蒡 (同右)

・猛々し緑も枯れる初秋かな (厚木市愛名 岩田 陸)

・夕暮れに鳴く蛸はもういない (同右)

・向日葵は枯れ晩夏には火花咲く (同右)

・中津川見上げた空に秋の雲 (愛川町中津 今井 絢子)

・若宮に実る稲穂のいい香り (同右)

・朝顔や死者に彩れて愛川 (部門別及び名前無記入)

・秋の風刻を傾け道を傾け (同右)

・かわせみや見知らぬ曲り角の先 (同右)

・毬栗や割れて落ちそう手を延べて (愛川町中津 村井 庄三)

・鈴を振る夜の静寂の秋の声 (同右)

・暮色や日増しに冷たき足の先
(同 右)

・蔓草やここで終りと風が吹く
(同 右)

☆役終えて畦に横たえ捨案山子
(同 右)

・落鮎や流れの先に海原が
(同 右)

・秋晴れの木立の向こうに中津川
(愛川町中津 今井 千鶴子)

☆笹舟の旅は水澄む中津川
(同 右)

・秋桜土手の向こうに中津川
(同 右)

・旅の宿南風湯気とばしひとり風呂
(厚木市上依知 伊藤 孝行)

・小田原城白く連なる雲の峰
(同 右)

・子ら集いテーブル狭し盆の膳
(同 右)

・七日目か命継がんと絞る蟬
(同 右)

・はさ架けに無情の雨が降り注ぐ
(愛川町中津 別府 起雄)

・ヒガンバナ赤きじゅうたんひきつめて
(同 右)

・山道にひとときわめだつヒガンバナ
(同 右)

・柿の実が夕日に赤く照りはへる
(同 右)

・溪流を歩きし魚影紅葉散る
(同 右)

・物陰にかくれし山女目に止まり (同右)

・山女釣り足音忍び紅葉かな (同右)

・跡切れては鳴くこおろぎの寂し秋 (愛川町三増 萩原喜代子)

・朝顔や陰にむらさきこぼれ種子 (同右)

・子等の声響く校庭秋の暮れ (愛川町中津 茅 徳得)

・吾亦紅器も渋き老いの部屋 (同右)

・愛の川笑顔で囲む芋煮会 (同右)

・ふるさとの鎮守の森の竹の春 (愛川町中津 佐藤 潔)

・古戦場もののふの碑よ秋の風 (同右)

・大山の遠き峰までつばめ飛ぶ ※春をうたった句とのこと (同右)

☆ 躰やどの子もおなじひかりなり (愛川町春日台 亀田 雅江)

・ものの芽やレンズの向こう惑星七つ (同右)

・アジサイは今年のアジサイヘンアジサ (愛川町半原 永見 真涼)

・ホタルスピッツきいてくれ。 (同右)

(※同氏より、他に七点の投稿があるが、季語の記載なく川柳と判断。未掲載とさせていただきます。)

・朝桜ゆくランドセル真つ黄色 (愛川町春日台 衛藤 佳也)

・明日の世に命つなきて蟬の殻 (同右)

・立ちしなふ折り目ただしき白桔梗

(同 右)

・箕輪田の山背にひかる豊の秋

(愛川町半原 広井 瑞枝)

☆飢餓知らぬ平成の世の終戦日

(同 右)

・身の丈の終の住処や虫時雨

(同 右)

・花萩をゆらす風あり坂の上

(愛川町中津 森田 京子)

☆ふしくれし夫の手酌や新走

(同 右)

・辻地藏翹を休めてアキアカネ

(同 右)

・アワダチ草鮎釣り終る秋の風

(愛川町中津 高橋 貞夫)

・青田風ふるさと我にやさしかり

(厚木市上依知 高階弘悦)

・ピッチャーの足高々と雲が峰

(同 右)

・被災の地草のみが広がりぬ

(同 右)

・稻香るスキップ久しく忘れけり

(厚木市鳶尾 矢下 育子)

・蛍とぶ空に流れのあるやうに

(同 右)

・つくつくの近寄れば止む札所かな

(同 右)

・二つ三つ初めて含む棗かな

(厚木市飯山 石川 和嘉子)

・小社の笛の音のせて刈田風

(愛川町半原 富永 規子)

・大寒や川面睨める鳥鷺の群

(同 右)

・駅鈴の出でし土手上霜柱

(同 右)

- ・わが命いのちかくありにけりせみ蟬はつる (愛川町半原 和田 一雄)
- ・忘れ得ぬえ少年の日や初はつ蛩ほたる (同右)
- ・林道りんどうに一輪いちりん咲くや百合ゆりの花はな (同右)
- ・ワルツき聞き新年しんねんの音鳴りおと響ひびく (同右)
- ・聖せいなる日ひチヨコもちら貫なみだいて涙あり (同右)
- ・雛ひなの顔かお古いにしえ偲しのぶ華はなやかさ (同右)
- ・あの頃ころの君きみに供そなえる秋あき桜はな (愛川町春日台 木橋 恭子)
- ・また訃報ふほう残りのこ少すくなき柿かきもみじ (同右)
- ・道みちすがら相あ変へわらずの鬼おに薊あざみ (同右)
- ・二人ふたりして老おいいを語かたる夜よ秋あき深ふかし (愛川町角田 梢葉)
- ・城しろヶ島しま芒むぎのはての海うみの碧あお (同右)
- ・色いろ鳥とりのきている庭にわにそとと立たつ (同右)
- ・合あ歓はの葉はは今日けふはまぶたをどじてやさし (愛川町角田 香景)
- ・雨あめ後のあとの畔ほとけみじかき季よを遊あそぶ虫 (同右)
- ・ふつくらと白しろモクレンに絹ぬいの雨あめ (同右)

※山十邸句会十二月二日(土) 一時よりご参加を。初心者の教室も含む。